

1 ハンゲ

2 生薬の性状の項を次のように改める。

3 生薬の性状 本品はやや扁平された球形～不整形を呈し、径
4 0.7 ～ 2.5 cm，高さ0.7 ～ 1.5 cmである。外面は白色～灰白
5 黄色で，上部には茎の跡がくぼみとなり，その径は通例，本
6 品の径の $1/5 \sim 1/2$ である。茎の跡のくぼみの周辺には根
7 の跡がくぼんだ細点となっている。質は充実する。切面は白
8 色，粉性である。

9 本品はほとんどにおいがなく，味は初めなく，やや粘液性
10 で，後に強いえぐ味を残す。

11 本品の横切片を鏡検（5.0I）するとき，主としてでんぷん
12 粒を充満した柔組織からなり，僅かにシュウ酸カルシウムの
13 束針晶を含む粘液細胞が認められる。でんぷん粒は主として
14 2 ～ 3個の複粒で，通例，径 $10 \sim 15 \mu\text{m}$ ，単粒は，通例，径
15 $3 \sim 7 \mu\text{m}$ である。シュウ酸カルシウムの束針晶は長さ $25 \sim$
16 $150 \mu\text{m}$ である。

17 純度試験(3)の項を削る。

18